

大学入学共通テスト試行調査 2018.11 政治・経済

全体概要

制限時間	60分	配点	100点	大問数	4大問
出題分野	現代の政治、現代の経済				
難易度	※対現行センター試験		やや難		
解答形式	マーク式				
主な特徴	※対現行センター試験		複数の資料を見比べながら解かせる問題が多く出題されている。組合せ問題の数が多く、単純な4択問題はわずかしか出ていない。		

全体出題傾向

◆出題形式が複雑になった分だけ難しい

政治経済の場合はセンター試験においても近年グラフや図表といった資料を読み取らせる問題が出題されているが、その場合、多くが一つの資料を読み取らせて答えさせるものであった。

一方、この試験では複数の資料を比較させながら読み取らせ答えさせる問題が多くを占めている。知識的には従来のセンター試験と変わりはないが、出題の形式が複雑になっており、問題の解き方に慣れていないと60分内に解くのは困難であろう。

対策

◆正確に早く問題を解く方法を身につける

教科書レベルの基本的知識を充実させておくことは従来のセンター試験の場合と変わりはないが、出題形式が複雑になっているので、問題を解いていくなかで頭の中の知識をどのように引き出し活用していくかの解法が重要になってくる。その解法を習得するためには、「共通テスト」の出題形式に沿った演習問題を繰り返し行って、特有の出題形式に慣れておく必要がある。さらに問題をスピーディーに解くということもこの試験では要求されるので、演習問題を通して正確に早く解く力も習得していきたい。

大問別コメント

第1問

- A 生徒がまとめた民主主義についての文章を示して、民主主義の原理や国会の議決方法について問う問題。基礎的な知識があれば解ける平易な問題である。
- B 生徒が持ち寄った政治や経済に関する資料を題材とした問題で、3つの資料を同時に読み取らせる問6の地方自治に関する問題は出題形式が複雑なだけで聞かれていることは平易。また、問8の問題も出題形式が少々複雑だが簡単な思考力で解ける問題。

第2問

第二次世界大戦後の年表を示して、国際連合、軍縮問題、人権に関する条約、国際政治問題などについて基本的な知識を問う問題。出題形式も簡単な問題が多くを占めるが、問7の排出権取引に関する問題は論理的な思考力が要求され難しい問題といえる。

第3問

経済分野の問題。センター試験でも頻出問題である需給曲線の問題や経済活動を測る指標に関する問題があるが、少し形式は複雑なもの、いずれも内容的には基本的で平易な問題といえる。問6はジニ係数の資料と所得課税率の資料を同時に読み取らせる問題である。また、問8は3つのグラフを読み取らせる問題で少々複雑といえる。

第4問

- A 大学のオープンキャンパスでの資料を示し、現代の国際経済のしくみや国際資本移動の自由化について問う問題。問2の問題は与えられた別添資料をよく読まないで誤答を招きやすい。
- B 問4は為替相場の推移を示したグラフが与えられ設問に答える平易な問題。
問5の国際収支表の問題は国際収支表の各項目の内容が正確に理解できていないと解けない問題。
問7はODAなどに関する資料が3つ示された問題で多少複雑である。